

Broaden your horizons 67 ~さあ、視野を広げて!~



こんにちは。メディセルのしゃっちょう、児島恵美子です。

先日、メディセル大阪校で「第9回次世代の薬剤師を創る会」を開催いたしました。一般口頭発表では、「CKD患者への糖尿病薬物治療」というテーマで、患者の検査値データを把握できる薬局が1割にとどまっている現状を踏まえ、どのような指導がベストなのかご発表いただきました。次に、緩和医療についてです。326床の病院薬剤師による、「緩和医療には延命効果がある。実は終末期に限らず、早期の抗がん剤治療とともに連携して行っていくものだ!」と概念を根底から覆すニューノーマル的なご発表には衝撃を受けました。最後に、妊婦と授乳婦に対する耳鼻科処方のご発表を切り口に、薬の分類や有用な情報源などのご意見を参加者からも活発に出していただきました。

特別講演1では、医師でもある神戸薬科大学の水野成人教授から、「薬剤師が知っておくべき内視鏡」をテーマに、リアルな映像、最新技術に関する知見をご披露いただきました。「今まで内視鏡にかかわる薬剤師業務は看護師の守備範囲だった。しかし、今後は薬剤師に医療チームの一員として、内視鏡に関わる薬剤の知識を増やし、活躍してほしい」という熱いメッセージが胸に突き刺さり、あらためて職能の可能性が無限大であることを痛感しました。特別講演2では、スポーツファーマシスト認定審査委員でもある薬剤師の大石順子先生に、「スポーツにおける薬剤師の職能」というテーマで、ご講演いただきました。私はスポーツファーマシストの認定を取得しましたが、まだ会場では数人しか認定者がいなかったのも、皆さん興味津々でした。中国やブラジルでは豚にドーピングで禁止されているクレンブテロールを投与しているので、スポーツ選手は食べてはいけない。だから、中国には「ドーピングフリーレストラン」があり、卓球選手はそこでしか食事をとらないように気をつけているなど、非常にリアルなお話が聞けました。また、禁止薬物は年々変わるので、注意しなければいけない。そして投与方法も気をつけなければいけない。例えば、にんにくは禁止されていないが、にんにく注射を静脈から投与するとアウトなど、細かいことに皆さん驚いていらっしゃいました。

マラソンを始める人が増えていますが、スポーツマンの健康を守るため、薬剤師の活躍の場はまだ増えていくぞ!と思いました。皆さん、いろいろなことに興味を持って、頑張ってください!